

### 「3～4 ヶ月齢」

生後3ヶ月齢以前と以後では胃のしくみが異なるため、給与すべき飼料も違います。初期から育成飼料では発育が劣ります。また、スターターを4ヶ月齢以上の子牛に給与すると餌の特性から尿石になることもあります。

濃厚飼料給与は月齢の半分が目安となります。（4ヶ月齢なら2kg以上）

粗飼料は3ヶ月以降徐々に増量します。濃厚飼料を規定量食べた後は粗飼料飽食。

3ヶ月齢までにルーメンの発達が十分であれば、その後の粗飼料利用性は向上します。

### 「5 ヶ月齢以降」

安福系の牛は良質粗飼料が十分給与出来れば、濃厚飼料3kgでもOK。（ただし、血統による差あり。また、濃厚飼料過剰給与による\*尾枕に注意）

\*尾枕：尾の付け根にできる脂こぶ。内臓脂肪付着のパロメーターともいわれ、肥育農家から敬遠されます。（7ヶ月齢頃から注意が必要といわれていますが、安福系の牛は脂肪が付きやすいため5ヶ月齢から要注意）

## 保 温

気温 10℃以下では、生後 1～2 ヶ月齢までの子牛には保温が必要（30 日齢未満は 15℃以下）  
ヒーター、ジャケット、断熱マット等での保温・冷え防止



### 「ポイント」

1. 3ヶ月齢までの子牛には濃厚飼料（スターター）をできるだけ食べさせ、第1胃（ルーメン）を育てる。
2. 新鮮で清潔な水をいつでも飲めるように。また飼槽は毎回清掃することがとても大切。
3. 4ヶ月齢以上では濃厚飼料の給与をほどほどに押さえ、良質粗飼料を飽食させます。（尾枕に注意！）
4. 2ヶ月齢までの子牛は保温が大事。冬期のすきま風対策と換気を忘れずに。



岐阜県飛騨家畜保健衛生所 TEL : (0577) 33-1111  
〒506-8688 岐阜県高山市上岡本町 7-468 FAX : (0577) 32-9019  
Email: c24508@pref.gifu.lg.jp URL: <http://www.pref.gifu.lg.jp/pref/s24508>